

古文「めり・らし・なり」推定の助動詞 識別 100題ドリル

対象：高校生・大学受験生 | 著作権：誰でも古典塾 (kotennosensei.com) 無断転載禁止

はじめに

「めり」「らし」「なり」は、どれも「～らしい・～ようだ」と訳せる推定の助動詞ですが、「何を根拠に推定しているか」で使い分けます。さらに「なり」は**断定**の「なり」と紛らわしく、**接続**で見分けます。

傍線部を次の**4タイプ (ア～エ)** に分類しましょう。

記号	語・意味	根拠・目印	接続
ア	めり (視覚推定・婉曲)	目で見ても「～ように見える」	終止形 (ラ変は連体形)
イ	なり (聴覚推定・伝聞)	音・声・人づて 「～と聞こえる／～だそうだ」	終止形 (ラ変は連体形)
ウ	らし (根拠ある推定)	確かな根拠「～らしい」(和歌に多い)	終止形 (ラ変は連体形)
エ	なり (断定)	「～だ・～である」と言い切る	体言・連体形に接続

鉄則 - めり → 目で見えた推定 (ア)。らし → 根拠ある推定 (ウ)。この2つは断定と紛れない。 - 「なり」は接続を必ず確認。終止形に付けば推定・伝聞 (イ) / 体言・連体形に付けば断定 (エ)。 - 例：「鳥鳴くなり (終止+なり=聞こえる→イ)」 ⇔ 「鳥は鳥なり (体言+なり=断定→エ)」。

🎯 解き方のコツ

- まず語を見る。「めり」ならア、「らし」ならウで確定 (断定と混じらない)。
- 「なり」が出たら接続をチェック。直前が体言か連体形なら断定 (エ)。直前が終止形なら推定・伝聞 (イ)。
- サ変「す」なら、終止「す」+なり=推定 (イ) / 連体「する」+なり=断定 (エ)。下二段なら終止「聞こゆ」/連体「聞こゆる」で見分ける。
- めり=目/なり=耳・人づて/らし=根拠、と根拠で覚える。

採点表

部	問題	目標
第1部 基礎	Q1～Q20	18／20
第2部 標準	Q21～Q50	24／30
第3部 応用	Q51～Q80	21／30
第4部 入試	Q81～Q100	14／20

【第1部】基礎 (Q1～Q20)

Q1. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

見れば、人々はや帰るめり。 答え：ア 解説：「帰る（終止）＋めり」。目で見えて「帰るように見える」視覚推定。

Q2. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

いづくにか、笛の音すなり。 答え：イ 解説：「す（サ変・終止）＋なり」。音を聞いての聴覚推定「笛の音がするようだ」。

Q3. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）み吉野の山に雪降るらし。 答え：ウ 解説：「降る（終止）＋らし」。根拠にもとづく推定「雪が降っているらしい」。和歌に多い。

Q4. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

これは、都の人の家なり。 答え：エ 解説：体言「家」＋なり。「～である」と言い切る断定。

Q5. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

風吹きて、花散るめり。 答え：ア 解説：「散る（終止）＋めり」。目で見えての視覚推定「散るように見える」。

Q6. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

山のあなたに、鹿の鳴くなり。 答え：イ 解説：声を聞いての聴覚推定「鹿が鳴いているようだ」。

Q7. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

かの人は、やむごとなき大臣なり。 答え：エ 解説：体言「大臣」＋なり。断定「～である」。

Q8. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

(歌) 秋の野に、萩咲きぬらし。 答え：ウ 解説：「咲きぬ（終止）＋らし」。根拠ある推定「咲いたらしい」。

Q9. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

子ども、皆寝ぬめり。 答え：ア 解説：「寝ぬ（終止）＋めり」。様子を見ての視覚推定「寝てしまったようだ」。

Q10. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

夜更けて、遠く鐘の聞こゆなり。 答え：イ 解説：「聞こゆ（下二・終止）＋なり」。音を聞いての聴覚推定。

Q11. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

我こそは、この国の主なれ。 答え：エ 解説：体言「主」＋なり（已然形「なれ」、係助詞「こそ」の結び）。断定。

Q12. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

月、山の端に出づめり。 答え：ア 解説：「出づ（下二・終止）＋めり」。目で見ての視覚推定。

Q13. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

(歌) 衣ほすてふ夏来たるらし。 答え：ウ 解説：「来たる（終止）+らし」。干された衣を根拠にした推定「夏が来たらしい」。

Q14. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

軒のあたりに、水の流るなり。 答え：イ 解説：「流る（下二・終止）+なり」。音を聞いての聴覚推定。

Q15. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

ここは、昔の宮の跡なり。 答え：エ 解説：体言「跡」+なり。断定「～である」。

Q16. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

道のほとりに、人多く集ふめり。 答え：ア 解説：「集ふ（終止）+めり」。目で見えての視覚推定。

Q17. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

戸の外に、人の来（く）なり。 答え：イ 解説：「来（カ変・終止「く」）+なり」。物音を聞いての聴覚推定「人が来るようだ」。

Q18. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

(歌) 龍田川、紅葉乱れて流るらし。 答え：ウ 解説：「流る（終止）+らし」。根拠ある推定。和歌に多い。

Q19. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この笛、世に名高き宝なり。 答え：エ 解説：体言「宝」+なり。断定。

Q20. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

雲行きあやしく、雨降るめり。 答え：ア 解説：「降る（終止）＋めり」。空を見ての視覚推定。

【第2部】標準（Q21～Q50）

Q21. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

草むらに、虫の鳴くなり。 答え：イ 解説：声を聞いての聴覚推定「虫が鳴いているようだ」。

Q22. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

答へていはく、「我は漁師なり」と。 答え：エ 解説：体言「漁師」＋なり。断定「～である」。

Q23. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

庭の桜、はや咲き初むめり。 答え：ア 解説：「初む（下二・終止）＋めり」。目で見ての視覚推定。

Q24. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）天の香具山、霞たなびく春来ぬらし。 答え：ウ 解説：「来ぬ（終止）＋らし」。霞を根拠にした推定。

Q25. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

壁を隔てて、人の物言ふ声すなり。 答え：イ 解説：「す（サ変・終止）＋なり」。声を聞いての聴覚推定。

Q26. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

持ちたるは、めづらかなる唐の鏡なり。 答え：エ 解説：体言「鏡」＋なり。断定。

Q27. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

舟、はや岸を離るめり。 答え：ア 解説：「離る（下二・終止）＋めり」。目で見えての視覚推定。

Q28. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

軒の松に、風の渡るなり。 答え：イ 解説：松を渡る風の音を聞いての聴覚推定。

Q29. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この童は、商人（あきびと）の子なり。 答え：エ 解説：体言「子」＋なり。断定。

Q30. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）あしひきの山ほととぎす、今ぞ鳴きぬらし。 答え：ウ 解説：「鳴きぬ（終止）＋らし」。根拠ある推定。

Q31. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

火、いよいよ燃え広がるめり。 答え：ア 解説：「広がる（終止）＋めり」。目で見えての視覚推定。

Q32. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

谷の方より、水の落つなり。 答え：イ 解説：「落つ（上二・終止）＋なり」。水音を聞いての聴覚推定。

Q33. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

答へけるは、「これなむ、求めし玉なる」。 答え：エ 解説：体言「玉」＋なり（連体形「なる」、係助詞「なむ」の結び）。断定。

Q34. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

人々の気色、いと心苦しげな**めり**。 答え：ア 解説：「なる（形容動詞・連体）＋めり」が「なめり」。様子を見ての視覚推定。

Q35. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

「上達部、皆参り給ふ」といふ**なり**。 答え：イ 解説：「言ふ＋なり」で、人づての伝聞「～と言うことだ・～だそうだ」。

Q36. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

かの聖の住む所は、深き山の奥**なり**。 答え：エ 解説：体言「奥」＋なり。断定。

Q37. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）み熊野の浦の浜木綿、咲きぬ**らし**。 答え：ウ 解説：「咲きぬ（終止）＋らし」。根拠ある推定。

Q38. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

軒近く、鳥の羽うつ音**すなり**。 答え：イ 解説：「す（サ変・終止）＋なり」。羽音を聞いての聴覚推定。

Q39. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

日暮れて、人かげまれなる**めり**。 答え：ア 解説：「まれなる（形容動詞・連体）＋めり」。目で見えての視覚推定。

Q40. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この所、もとは海**なりき**。 答え：エ 解説：体言「海」＋なり（連用形「なり」＋過去「き」）。断定。

Q41. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

都には、疫病いみじくおこるなり。 答え：イ 解説：「おこる（終止）＋なり」。人づての伝聞「流行しているようだ」。

Q42. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

客人（まらうど）、はや立ち帰るめり。 答え：ア 解説：「帰る（終止）＋めり」。目で見えての視覚推定。

Q43. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）富士の嶺に、雪はなほ降るらし。 答え：ウ 解説：「降る（終止）＋らし」。根拠ある推定。

Q44. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

持て来たるは、よく切るる刀なり。 答え：エ 解説：体言「刀」＋なり。断定。

Q45. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

軒の雫、いまだ落つなり。 答え：イ 解説：「落つ（上二・終止）＋なり」。雫の音を聞いている聴覚推定。

Q46. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

病、日にそへて重るめり。 答え：ア 解説：「重る（終止）＋めり」。様子を見ての視覚推定。

Q47. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

われは、その家に仕ふる女房なり。 答え：エ 解説：体言「女房」＋なり。断定。

Q48. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

「帝、やがて行幸あるべし」といふなり。 答え：イ 解説：「言ふ＋なり」で伝聞「～だそう
だ」。

Q49. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

(歌) 春日野の若菜摘みつつ、君を待つらし。 答え：ウ 解説：「待つ（終止）＋らし」。根拠
ある推定。

Q50. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

池の蓮、おほかた散り果てぬめり。 答え：ア 解説：「果てぬ（終止）＋めり」。目で見ての視
覚推定。

【第3部】 応用 (Q51～Q80)

Q51. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

風の音にぞ、秋の来（き）ぬるなりと知らるる。 答え：エ 解説：「来ぬる（完了「ぬ」連体）
＋なり」。連体形接続なので断定「秋が来たのだ」。

Q52. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

ものの音、絶え絶えに聞こゆなり。 答え：イ 解説：「聞こゆ（下二・終止）＋なり」。終止形
接続で聴覚推定「聞こえるようだ」。

Q53. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

あれは、世に隠れなき笛の上手の奏するなり。 答え：エ 解説：「奏する（サ変・連体）＋な
り」。連体形接続なので断定「奏するのだ」。

Q54. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

いづこにか、人のすまふなり。 答え：イ 解説：「すまふ（終止）＋なり」。物音・気配を聞いての聴覚推定「住んでいるようだ」。

Q55. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

灯（ともしび）の影、かすかにゆらぐめり。 答え：ア 解説：「ゆらぐ（終止）＋めり」。目で見ての視覚推定。

Q56. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

よく見れば、これは作りたる花なり。 答え：エ 解説：体言「花」＋なり。断定「造花である」。

Q57. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）我が宿の梅、今を盛りと咲くらし。 答え：ウ 解説：「咲く（終止）＋らし」。根拠ある推定。

Q58. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

暁、鶏（とり）の鳴くなり、いざ立たむ。 答え：イ 解説：鶏の声を聞いての聴覚推定「鳴いているようだ」。

Q59. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

このわたりに住むは、いやしからぬ人の住むなるべし。 答え：イ 解説：「住む（終止）＋なる」。終止形接続で推定・伝聞。「なるべし」で「住んでいるのであろう」。

Q60. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

雪うち積もりて、道も見えぬめり。 答え：ア 解説：「見えぬ（終止）＋めり」。目で見ての視覚推定「見えなくなったようだ」。

Q61. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

その帝は、世を治むること九年なりき。 答え：エ 解説：体言「九年」＋なり（連用形＋き）。断定。

Q62. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

山風に乗りて、遠く笛の吹くなり。 答え：イ 解説：笛の音を聞いての聴覚推定。

Q63. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）ひぐらしの鳴きつるなへに、日は暮れぬらし。 答え：ウ 解説：「暮れぬ（終止）＋らし」。ひぐらしの声を根拠にした推定。

Q64. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

これこそ、年ごろ尋ねし父の形見なれ。 答え：エ 解説：体言「形見」＋なり（已然形「なれ」、「こそ」の結び）。断定。

Q65. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

客、酔ひて、いたく乱るめり。 答え：ア 解説：「乱る（下二・終止）＋めり」。様子を見ての視覚推定。

Q66. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

帳のうちに、人のうち嘆くけはひすなり。 答え：イ 解説：「す（サ変・終止）＋なり」。気配・音を聞いての聴覚推定。

Q67. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

文を開きて見れば、別れを告ぐる言葉なり。 答え：エ 解説：体言「言葉」＋なり。断定。

Q68. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

「この寺は、いと靈驗あらたかなる所」と人いふなり。 答え：イ 解説：「言ふ+なり」で人づての伝聞「～だそうだ」。

Q69. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

(歌) 水鳥の立ちし騒ぎに、敵(あた)の寄せ来(く)らし。 答え：ウ 解説：「来(カ変・終止「く」)+らし」。水鳥の騒ぎを根拠にした推定。

Q70. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

馬、草に飽きて、いま臥(ふ)すめり。 答え：ア 解説：「臥す(終止)+めり」。目で見ての視覚推定。

Q71. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

笛を吹くは、かの有名なる楽人(がくにん)のするなり。 答え：エ 解説：「する(サ変・連体)+なり」。連体形接続なので断定「するのだ」(Q53と同型)。

Q72. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

軒端を、しきりに雨のうつなり。 答え：イ 解説：「うつ(四段・終止)+なり」。雨音を聞いての聴覚推定。

Q73. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

かの女、このごろ心地わづらふめり。 答え：ア 解説：「わづらふ(終止)+めり」。様子を見ての視覚推定。

Q74. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

御簾のうちに、琴をかき鳴らすなり。 答え：イ 解説：「鳴らす(四段・終止)+なり」。琴の音を聞いての聴覚推定。

Q75. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

帝のおはします所は、内裏といふ所なり。 答え：エ 解説：体言「所」＋なり。断定。

Q76. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

(歌) 秋萩の散りゆく見れば、鹿鳴きぬらし。 答え：ウ 解説：「鳴きぬ(終止)＋らし」。根拠ある推定。

Q77. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

戸を叩きて、何やらん告ぐるなり。 答え：エ 解説：「告ぐる(下二・連体)＋なり」。連体形接続なので断定「告げるのだ」。

Q78. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

月明かければ、虫も鳴かで、ただ静かなめり。 答え：ア 解説：「静かなる(形容動詞・連体)＋めり」が「静かなめり」。様子を見ての視覚推定。

Q79. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

隣にて、人の声高に物言ふなり。 答え：イ 解説：「言ふ(四段・終止)＋なり」。声を聞いての聴覚推定。

Q80. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この皮衣(かはごろも)は、まことの火鼠(ひねづみ)の皮なり。 答え：エ 解説：体言「皮」＋なり。断定。

【第4部】入試(Q81～Q100)

Q81. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

夜もすがら、軒の雨のそそくなりを受けて、明かしつ。 答え：イ 解説：「そそく(四段・終

止) + なり」。雨音を聞いての聴覚推定「降りそそぐようだ」。

Q82. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

よく見れば、人と見えしは枯れたる木なりけり。 **答え：エ** **解説：**体言「木」 + なり (+ けり)。断定「枯れ木であったのだ」。

Q83. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

風いで来て、釣りする舟ども、はや漕ぎ帰るめり。 **答え：ア** **解説：**「帰る (終止) + めり」。海上の舟を見ての視覚推定。

Q84. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

(歌) 天の原ふりさけ見れば、月かたぶきぬらし。 **答え：ウ** **解説：**「かたぶきぬ (終止) + らし」。空を根拠にした推定。

Q85. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

几帳のかげに、衣のふれ合ふ音すなり。 **答え：イ** **解説：**「す (サ変・終止) + なり」。衣ずれの音を聞いての聴覚推定。

Q86. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

答へていはく、「この道を行けば、京にいたるなり」と。 **答え：エ** **解説：**「いたる (四段・連体) + なり」。ここは「～のだ」と説明する断定。

Q87. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

主 (あるじ) の心ばへ、いとあはれに、人をいたはるめり。 **答え：ア** **解説：**「いたはる (終止) + めり」。様子から判断する視覚推定 (婉曲)。

Q88. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

をちかたに、舟こぐ音のかすかにすなり。 答え：イ 解説：「す（サ変・終止）＋なり」。遠くの櫓の音を聞いての聴覚推定。（※「する」ではなく終止「す」＋なり。已然・連体の「する」と取り違えないこと。）

Q89. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）み吉野の山辺に見ゆる白雪は、花の散るらし。 答え：ウ 解説：「散る（終止）＋らし」。散る花を雪と見まがう、その根拠にもとづく推定。

Q90. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この人は、もとは藤原のなにかしと聞こえし人なり。 答え：エ 解説：体言「人」＋なり。断定。

Q91. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

花は盛り過ぎて、葉がちになりゆくめり。 答え：ア 解説：「なりゆく（終止）＋めり」。木の様子を見ての視覚推定。

Q92. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

暁方、鶏のしきりに鳴くなり、人々起き出づ。 答え：イ 解説：鶏の声を聞いての聴覚推定「鳴いているようだ」。

Q93. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この瓜は、いとよく熟（う）れたるなり、召し上がれ。 答え：エ 解説：「熟れたる（完了「たり」連体）＋なり」。連体形接続なので断定「熟しているのだ」。

Q94. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）今朝来鳴きいまだ旅なる、ほととぎす花橘に宿るらし。 答え：ウ 解説：「宿る（終止）＋らし」。声を根拠にした推定。

Q95. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

夜深く、時を告ぐる鼓（つづみ）の鳴るなり。 答え：イ 解説：「鳴る（終止）＋なり」。鼓の音を聞いての聴覚推定。

Q96. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

旅人、道に迷ひて、いとわびしげなめり。 答え：ア 解説：「わびしげなる（形容動詞・連体）＋めり」が「わびしげなめり」。様子を見ての視覚推定。

Q97. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

北の方は、按察使（あぜち）の大納言の御むすめなり。 答え：エ 解説：体言「むすめ」＋なり。断定。

Q98. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

深き夜、遠き寺の鐘のつくなりを、ひとり聞く。 答え：イ 解説：「つく（四段・終止）＋なり」。鐘の音を聞いての聴覚推定。

Q99. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）秋来ぬと、目にはさやかに見えねども、風の音にぞ秋はたちぬらし。 答え：ウ 解説：「たちぬ（終止）＋らし」。風の音を根拠にした推定。

Q100. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

をりふし、御簾のうちに、箏（さう）の琴をしらぶる音すなり。 答え：イ 解説：「す（サ変・終止）＋なり」。琴を調べる音を聞いての聴覚推定。（文末の「しらぶる」は連体だが、傍線部の判定は「す＋なり」の終止形接続。）

採点・振り返り

部	点数
第1部 基礎 (Q1~Q20)	/20
第2部 標準 (Q21~Q50)	/30
第3部 応用 (Q51~Q80)	/30
第4部 入試 (Q81~Q100)	/20
合計	/100

復習のポイント - めり (ア) = 目で見た推定、らし (ウ) = 根拠ある推定。この2つは断定と紛れない。 - 「なり」が出たら必ず接続を確認。終止形+なり = 聴覚推定・伝聞 (イ)、体言・連体形+なり = 断定 (エ)。 - とくにサ変は「す+なり (推定)」と「する+なり (断定)」、下二段は「聞こゆ+なり (推定)」と「聞こゆる+なり (断定)」で見分ける。 - 「なり」の断定・伝聞推定の識別は頻出。「なり」の識別ドリルとあわせて仕上げよう。